

<b>情報科教育法 A</b>		<b>教授 樽井 勇之</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>25200307</b>

### 1. 授業のねらい・概要

高等学校の情報科教育免許状を取得することを希望する学生に対して授業を行う。

情報科とは何かについて考察し、情報活用の実践力、小中高校における指導法、情報の科学的な理解の指導法、モデル化・シミュレーション、アルゴリズム、プログラミングなどに関する指導内容や指導方法を学ぶ。

### 2. 授業の進め方

講義形式を中心とするが、学生による調査・研究の報告（レポート）、発表なども取り入れながら進めていく。

### 3. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 情報科の成立</li> <li>3. 情報教育（小学校・中学校）</li> <li>4. 情報教育（高校）</li> <li>5. 情報活用の実践力の指導法</li> <li>6. 小中学校における指導法</li> <li>7. 高等学校における指導法</li> <li>8. 情報の科学的な理解の指導法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 問題解決の指導法</li> <li>10. モデル化・シミュレーションの指導法</li> <li>11. アルゴリズムの指導法</li> <li>12. プログラミングの指導法</li> <li>13. 情報検索の指導法</li> <li>14. データベースの指導法</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
---	--

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学修として、講義前に教科書を読み要点をまとめておく。事後学習として出題された課題を完成する。なお、これらの学修には、2時間以上が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、個別に指導する。個別の進捗状況、理解度に応じてさらに課題を出題することもある。

### 6. 授業における学修の到達目標

- ・学習指導要領における当該科目の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
- ・個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
- ・教科「情報」と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。
- ・教科「情報」に関する各分野及び科目の指導内容と指導方法を理解している。
- ・発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察できる。

### 7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物（60%）、定期試験の結果（40%）によって評価する。

### 8. テキスト・参考文献

テキスト：久野靖・辰巳丈夫、『情報化教育法（改訂3版）』、オーム社

### 9. 受講上の留意事項

情報分野は技術の進歩が速いので常に勉強を継続し、新たな知識や技術の修得に努めること。